

腕力で挑戦、落ちたらずぶぬれ…

六甲山上のアスレチック施設「グリーンニア」（神戸市灘区六甲山町）が、3日にオープンする。164個の遊具を備え、規模は日本最大級という。目玉は、落ちたらずぶぬれの水上エリア、腕力自慢のマッスルエリア、空中を滑走する「ジップスライド」などだ。カナヅチで非力、高所が苦手な33歳の記者が、3月29日の内覧会で恐る恐る体験してみた。（井上太郎）

六甲山に日本最大級アスレチック

大自然で遊び尽くせ



水上のうんてい。落ちたらずぶぬれになる＝いずれも神戸市灘区六甲山町、グリーンニア（撮影・中西幸大）



ジップラインで谷を渡る井上太郎記者



ロープでつられた水上の丸太渡り

豊かな緑に澄んだ青空。4月下旬並みの暖かさに恵まれた当日、スタッフの案内で甲子園球場約6個分という広大な敷地を歩く。同じ場所にあった「六甲山カンツリーハウス」と「六甲山フィールド・アスレチック」が統合され、遊具は以前から倍増したという。

池の上の“道”

「もともと魚を釣って遊んでもらう場所でした」。約2600平方

記者が体験

方貯の池には30個の遊具がひしめき、小さな港町っぽく見える。水深は約70センチ。「大人には浅い」と聞いて安心する。

順路に入ると、池の上に人が1人通れる程度の狭く、短い「一本道」が現れた。道、といっても床はない。左右にポリカーボネート製の透明の板があるだけ。足元は池の水だ。両手足で踏ん張って6分前進する「スーパースパイダー

多彩な難易度、164個の遊具

空中滑走も

隣のマッスルエリアに入ると、腕力頼みのパワー系遊具が立ち並ぶ。野球部に所属した高校時代、弱肩貧打の控え野手としてベンチを温めた記者。持ち手部分が球形や車のハンドル形になったうんていに臨み、いずれも10秒もたずに

ウォーク」。深呼吸をして軽く跳び、ひとまずびたつと静止できた。が、「前に前に」との助言にこえられず沈黙。足が震え、ずり落ち始める。意を決して戻った。着地して、「パス」を宣言。水上には迂回路もあるため好きな場所だけで遊べる。付き添いもできる。

内覧会には家族で動画撮影する「ファミリー系チューバー」の姿もあった。高難度の遊具に挑んでは、ずぶぬれになって笑う子どもたち。無料のシャワールームがあり、着替えさえあれば心配なしだ。

「高い所が苦手でも大丈夫ですか」と聞くと、黙り込むスタッフ。余計に不安になって出発地点へ。だが序盤は斜面に沿って高さを感じにくいため、ためらわずに滑り出せた。春の爽やかな空気を切り裂く疾走感。時間にして片道わずか20秒、ひとときばかり見下ろす大自然は格別だった。

ほかにも2人以上で協力しないとクリアできないものや「インスタ映え」するものなど、独特の器具もある。計80個にも及ぶ新設遊具を監修したのは、6人組の人気チューバー「フィッシュヤーズ」だ。この日来場したリーダーのシルクロードさんは「自分のレベルに合わせて、好きな遊具を楽しんでほしい。そのためにいろんなパターンを作りました」と説明した。全部の遊具を遊び尽くすには、1日では足りないだろう。体力のない記者でも、ハードルの高さを感じなかった。まずは、得意なもので遊んでみてほしい。グリーンニア ☎078・891・0366